学び合いにおける思考の深まり†

薄田　太一*・溜池　善裕**
奈良女子大学附属小学校*
宇都宮大学教育学部**

学び合いが充実したものになった時，初めて子どもの思考は深まってくる。学び合うためには，話し合いは欠かせないが，話し合いを通して子どもの思考が深まっていくことが重要である。学び合う授業の基盤は個の学びである。個の学びが充実したものになっていると学び合うことで思考は深まっていく。1人の子どもを取り上げ，学習における思考の深まりを分析した。

キーワード：思考の深まり，学び合い，尺度の転換，独自学習

1. はじめに

奈良の学習法において，自律的に学ぶ子どもを育てるためには，独自学習を充実したものにすることが重要である。しかし,独自学習を充実させるには,集団の力を借りて学び合いながら進めることが不可欠であり，そのような学び合いが，どのようにして強いものとなっていくかについては，これまで実践研究を進めてきた[(1)]。

本稿では，さらに一歩進めて，1人の子どもの独自学習の深まりが，どのように深まるのかを追い，自律的な学習の思考の深まりについて考えていきたい。

2. 2年・しごと「やさいを　そだてよう」

2年月組（平成28年度）は，お店で売られている野菜よりおいしい野菜を育てることを目指して校舎わきの4畝の畑を中心に学習を展開した[(2)]。

本単元を通して，子どもたちが野菜を育てることを通して自分たちの食を支えるものや，それを育てる人に興味・関心をもって学習に取り組み，学習で見つけた疑問について調べたり考えたりする中で，子どもたちが野菜を育てることを中心にして，問いを見つけ，野菜をめぐる様々な事象と真剣に向き合い続けることをねらった。自ら動き，足を運び，体を使って低学年の子どもらしく学習に取り組むことを通して，全身全霊を打ち込むしごと学習になるよう願った。

3. EF女の思考過程

(1) 頑張って野菜を育てたい

独自学習の深まりを，EF女の学習の歩みを通しして見てみよう。EF女は，何事にも地道に取り組む子である。EF女は，どんなことにも一生懸命に取り組みながら，次第に自分の意見を持てるようになっていった。

夏野菜を育てることになり，何を育てるかについての話し合いを保護者参観で行ったが，その時のEF女の作文である。

1）5/14「しごとの学しゅう」　EF女

今日,しごとの学しゅうで　父おや　さんかんがありました。今日のテーマは，どんな　やさいをそだてたいか　かんがえよう　でした。

わたしは,おじいちゃんが　やさいを　たくさんそだてているので,今から　そだてても　だいじょうぶなものを　きいてみました。おじいちゃんは，「それなら,えだまめとサニーレタスやったら　できるで。」と言っていました。なので,おじいちゃんに　えだまめと　サニーレタスのたねを　もらいました。わたしは,えだまめと　サニーレタスのことを　はっぴょうしました。サニーレタスが　いいという人が　少しはいたので　うれしかったです。で

---

† Taichi SUSUKIDA* and Yoshihiro TAMEIKE**: Consideration about Making Children's Thought Deepen by Collaborative Learning
Keywords: Educational Method of Nara, Collaborative Learning

* The Elementary school Attached to Nara Women's University
** School of Education, Utsunomiya University
（tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

すが,ミニトマトが　そだてたい人が　いちばん多かったです。なので,ミニトマトに　まけないように　がんばって,えだまめと　サニーレタスを　つくりたい人を　ふやしたいです。

授業時，育てたい野菜を決める時に，祖父から聞いた今からでも育つ野菜について発表した。野菜の特性や,育つ条件などについては十分な理解がなく,育てたい子の多いミニトマトに負けないように，サニーレタスを作りたい人を増やしたいというのがEF女の思いである。

ところが，子どもたちに人気の高いミニトマトのうち，最初は順調に育っていたイエローアイコが枯れるという事件が起きた。

2）6/13「トマトがパニック」 EF女

今日,あさあそび,20分休み,ひる休みに畑に行って,やさいの　ようすを　見に行きました。すると,その中でトマトの　うねに　うえた　なえは,ぜんぶしおれていました。その中でも,イエローアイコのなえが大パニックの　じょうたいに　なっていました。イエローアイコのなえは,かれていて,ほかのなえとは　ちがって,なえが　ちゃ色になっていてしちゅうも　たてたのですが,なえは,しちゅうにぐったりと　たおれていました。わたしは，このままだと　花も　さいていないので　みは　ならないとおもいます。よく見ると，えだまめ，ピーマン，つるむらさき，トマトの　うねの中で，トマトの　うねが　1ばん　ざっ草が生えていました。わたしは，たぶん，ざっ草に　えいようをとられてしまったから，しおれたり　かれたりしてしまったと思います。今日，わたしとZ女さんで，ざっ草ぬきを　しておきました。ですが，まだ　ざっ草は　まだまだ　たくさん　のこっています。なので，みんなで，早く　ざっ草ぬきができるために，1時間とって　ざっ草ぬきを　したほうが　いいと思います。

当初からZ女は，畑に植えたどの野菜の世話も一生懸命に取り組んでいた。休み時間になると，必ず畑に行ってお世話と観察を毎日続けていたのである。EF女は,そんなZ女と一緒に畑に行き,イエローアイコが枯れた原因を考えたり，雑草抜きをひたすら続けているのである。けれども草は全部を取りきれず，これは大変だと野菜のことを心配しているのである。早く雑草を抜かないと,大変なことになる。それが,「1時間とって雑草抜きをした方がいい」という一文によく表れている。

3） 6/23「学校があってよかった」 EF女

今日,あさ目が　さめました。そのとき,6時すぎだったので,今日は,早く学校へいこうと思いました。そのとき,天気よほうでは,奈良けんに　大雨けいほうが　でてました。ベランダを　みてみると,雨びっしょりで大雨がふっていました。わたしは,それを見て,やさいが　きになりました。

トマト～しおれてないかな。

ピーマン～花がとれてないかな。

らっかせい～大きくなっているかな。

しんぱいになりました。

でも,大雨けいほうが　おわって,学校に　いっていそいで畑に行きました。やさいは,ぶじだったので　よかったです。しんぱいな　ところも　あったけど,このまま　もって,りっぱな　やさいに　なってほしいです。

EF女の野菜に対する想いが，とてもよく伝わってくる。この日は，大雨洪水警報が発令されて，朝は自宅待機となった。警報が解除されて午後から登校できるようになったのだが，家で待機している時にも野菜のことが気がかりなのである。EF女にとって，野菜を元気に育てることが切実な問題となり,「寝ても覚めても野菜」という状態になっているのである。登校して早速畑に行き,野菜の様子を見て,野菜が無事だったことに安堵している。野菜が学習と生活の中心となりEF女にとって，しごとの学習が自分のものになっているのである。

しかし，残念ながら，なぜ野菜は無事だったと言えるのか，どうすれば立派に育つのかという言及は見られない。筆者はこの作文に「野菜のことを思っているEF女さんの気もちが，とてもよく伝わってきました。すばらしいよ。おせわをがんばろうね。EF女さんは，どうして野菜がぶじだと思ったのかな？」とコメントして，さらなる具体的な追究を促した。物事を決めつけて，断定的に考えるのではなくて，根拠を具体的に述べて，本当に大丈夫なのか慎重に考えるようになることを願ったのである。

(2) お店よりおいしい野菜を育てるために

夏野菜を収穫して，ミニトマトとピーマンで，お店で売っている物と味比べをした。すると，ミニトマトはクラスの8割以上の子が，ピーマンも半数以上の子が，お店で売っている方がおいしいと感じる結果となった。「お店で売られている野菜よりおい

しい野菜を育てよう」というめあては，達成できなかったのである。

そこで，冬野菜でリベンジしようということになり，これまで以上に一生懸命に，みんなで協力してお世話に取り組んだ。

4） 11/17「しごとのどくじ学習」 EF女

今日，1時間目にしごとの学習で,どくじ学習でした。私は,のうかさんと　ちがうやり方,あいじょうの　こめ方を考えてみました。

私は,あいじょうの　こめ方を考えるのに時間は,とてもかかりました。私が　かんがえたのは，のうかさんは，つくった　やさいをスーパーなどで　うるためには,たべてくれる　あいてが　おいしいとよろこんでくれることを思いながら　つくっていると思いますが，私たちは，あじくらべを　しているだけなので，のうかさんの　あいじょうとは　ちがって，やさいが，私たちの子どものように，いっしょうけんめい　せわをする。という　あいじょうを　もって　つくれば，いいと思います。

こんかいは　いけるか　わかりませんが，いつかのうかさんより　おいしい　やさいが　つくれればいいです。

子どもたちは，夏野菜では，自力で考えて判断し，水やりなどのお世話をしてきた。その結果，お店で売っている野菜に負けたのだと考えたのである。だからこそ，お店で売っている野菜を作る農家さんの仕事を学ぶべきだということになった。

この日の2日前，GH女が朝の会の発表で，「私たちは，愛情をかけて育てられてきた。しかも，今までの成長過程で，愛情のかけられ方が違っていた。生まれた時と，今では違う。野菜も同じように成長に合わせて，愛情を込めなければならい。」という意見を述べた。このGH女の発表により，愛情について考えるようになった。

EF女も，GH女の発表を聞いて以降，愛情の込め方について考え続けていた。EF女本人も，考えるのに時間がかかったと述べている。ここに粘り強さが出てきたと感じられた。農家が野菜に対してかけている愛情と私たちの愛情とは違うと感じ，その違いから自分たちは何をすべきかにまで言及している。物事を比較して比べ，その上で自分はどうすべきかまで考えるようになってきたのである。この追究を支えているのは,「お店で売っている野菜を作っている農家さんに勝ちたい」という想いである。EF女は，勝ち負けにこだわることで，農家の存在を強く意識し始め，農家の存在を通して社会に対して目が開き，野菜作りの自分たちの課題を科学的，合理的に解決し，世話の仕方を改善しようとするようになった。

5） 11/24「かんさつ日記について」 EF女

今日，5時間目に，Z女さんの　かんさつ日記についての　はっぴょうが　ありました。今日のZ女さんの　はっぴょうでは，Z女さんは,かんさつ日記には日づけ，よう日，時間，何をしたかを　かけばいいと言っていました。私は，Z女さんと少しちがって，畑のようすや　畑がどんなようすだったから　どうしたなど　のこしておくと，つぎの　ときに　べんりだと思います。それに，かんさつ日記を書くならば,F男くんが　いっているとおり35人が,1日1回いっていない人がいるので，1人1回いくように，何か　きめればいいと思います。

かんさつ日記を　のこしておくことで,つぎの日との　やさいの　せいちょうが　くらべられるし，のうかさんと今のようすが　くらべられるので，いいと思います。だから，かんさつ日記を書いたほうがいいと思います。

EF女にとって，農家の育てる野菜よりもおいしい野菜に育てるために必要なことの1つは，観察である。そのために，Z女の観察との違いや，F男の観察の工夫にも着目しているのである。また，観察の目的について具体的なのもそのためである。観察日記を残すことで，野菜の成長の様子を前日と比べることができ，農家の野菜の様子とも比べられるというのである。友だちに学びつつ，農家の育てる野菜に勝てる方法を具体的に考え，野菜を育てるためには，例えば，水やりや肥料まきにしても，いつ頃，どれだけの量をあげることが適切なのか，しっかりとした根拠を求めるようになった。そのための観察日記の提案である。思考がさらに具体的になってきたのを感じた。

6） 12/5「ビニールトンネルはつけたほうがよいのか」EF女

今日，CD女さんが，てきおんより　ひくいばあいは　どうするか　はっぴょうしてくれました。その，CD女さんの　はっぴょうでは，ビニールトンネルを　するとよいと言っていました。でも，私は本当にビニールトンネルをつけたほうがいいのか分からなかったので，家で　かんがえてみました。た

とえ，今日のように，ほうれん草の　うねの上にとりの　ふんが　おちてきたとしても，そのビニールトンネルをつけておくと,ビニールの上に　おちるだけで，ビニールこうかんをすれば　いいだけなので，楽でいいと思います。ほかに，小さいすきまも　かくせて，虫たいさくに　なるし，おんどちょうせつも　できるので，私は，べつにビニールをつけてもいいと思います。それに，おじいちゃんの畑を見ると，ビニールトンネルをつけていて，ほかの人の　やさいと　くらべて，とても　せいちょうしていたので，早くビニールトンネルをつけたいです。

EF女は，様々な情報を集めて，どうすればいいかを考えるようになった。ここでのEF女の追究を支えているのは,「農家さんに勝ちたい」という想いである。そのためにはどうすればいいのか，自分たちの野菜作りに対してどれが有効なのかを考え，それをやってみることでよりよい方法を模索しているのである。その模索はとても具体的であり，その具体性は野菜の成長を心から願うものである。

7）　1/17「Kさんの畑を見学して」　EF女

今日，しごとの学習がありました。今日は,「Kさんの畑を見学して②」をしました。

私は，もう今年は，のうかさんには　かてないかもと思いました。それから，AB女さんやOP女さんは，あきらめずに　できることを　やると　いって　いました。私は，それを聞いて，のうかさんには　まけてしまうかも　しれないけど，あきらめないで，スーパーより　きれいで　おいしい野菜を作ろうと思いました。そのためにも，毎日あいさつして，みまもってあげないと　いけないと思います。それで，お父さんや　おかあさんが　たべても，おいしいと思ってくれて,スーパーに　かてるような,野菜を作りたいです。

子どもたちは,「実際の農家さんの畑と仕事を見学したい」という想いを強く抱くようになったため，奈良市近郊でこだわりを持って野菜を育てている専業農家のKさんの畑に12月19日に校外学習で見学に行くことにした。しかし校外学習の翌日から学級閉鎖になり，そのまま冬休みとなったため，見学のふりかえりは，年明けとなってしまった。

Kさんの育てた野菜を見ることで，野菜作りに対する想いに触れ，子どもたちの気持ちに変化が起きた。EF女は,「農家さんに勝ちたい」という思いは抱きつつも,「負けてしまうかもしれない」と思うのであるが，それでもなお諦めずに野菜を作ろうとしているのである。

(3) プロの農家は，先のことを考えている

校外学習後も野菜のお世話をしたり，Kさんに聞き取りをしていく中で，私たちと農家の違いについて大きな発見があった。そのことを，AB女がみんなに発表した。発表した内容は,以下の作文である。

8）　1/22「Kさんの畑を見学して,いかせることはあるか,ないか」　AB女

19日に，Kさんの畑に行きました。3か月，半年先のことを考えないといけないと　おっしゃっていたことは，19日の日記に書きました。3か月先，半年先のことを前に考えていたら，次にやることがすぐに　できます。やらないと　いけない　じきに,してあげなと　いけないことが　できます。たとえば，さむくなる前に，トンネルをしてあげるなどです。でも，私たちは，その時になって，どうしたらいいかを　みんなで話し合うから,時間がかかって,してあげたらいい　じきが　おくれて　しまっています。だから　今からでも，2月・3月にしてあげることを話し合って，決めておかないといけないと思います。ひりょうのタイミングのことを　おたずねしたかったので聞きました。今は,野菜は冬みんしているから，ひりょうを　あげなくて　いいそうです。2月に，また　まくそうです。まく　じきも,今から考えたらいいと思います。

AB女は，12月にKさんの畑に見学に行った後も，度々畑に足を運び，インタビューをしていたのである。そこで「農家さんは，3か月先，半年先のことを前に考えて」いることを聞き出したのである。この事実は，子どもたちに,「先のことを考える」という視点が抜けていたことを，気づかせることになった。自分たちが畑を見る目と，Kさんが畑を見る目が違うことに気づいた結果，時期が遅れないように「2月・3月にしてあげること」を決めておかなくてはならないと書いているのである。そして自分たちは，野菜を育てるのに必要な知識が不足していることにも気づき，であるならばどうすればよいのかについて話し合いが進んだ。その結果,「野菜のお世話で，これからすることが分かるためにはどうするか」ということが,今後の学習のテーマになった。

9） 2/6「私のもくてき・考え」 EF女

今日，2時間目にしごとの学習がありました。今日のテーマは，「野菜のおせわで，これからすることが分かるためにはどうすればいいか」です。私は，野菜のおせわのプロは，のう家さん，Kさんだと思います。だから，のう家さんに聞けばいいと思います。じゃあ，のう家さんに　どんなことを聞くか話し合いたいです。私は，のう家さんに，のう家さんの1日をしらべたいです。なぜなら，それが分かると時間かんけいなく，ひまなときに，できて　おせわすることが　できるからです。そして，そんなことがもしできたら，のう家さんになれないけど，のう家さんに　ちかづいた　あじが　あると思います。

私は今週に，のう家さんに，今の野菜のようすおせわのし方で，おたずねしてみたいです。

これからすることが分かるために，農家の1日の仕事を調べればいいのではないかとEF女は考えた。農家の1日の仕事が分かれば，それを参考にして，自分たちも先のことを考えてお世話ができるようになるのではないか。そうすれば自分たちの時間のある時に，いつでも作業ができるし，農家の味に少しでも近づけると思ったのである。野菜に対する想いがさらに増し，おいしい野菜を育てるための具体的行動を起こそうとするEF女に追究の深まりを感じた。EF女はこの考えを，しごとの時間に発表した。発表を聞いた子どもたちは，EF女の考えに賛成し，野菜を育てている祖父母や，Kさん，知り合いの農家などにインタビューをし，1日の仕事の内容とその仕事をする理由を詳しく調査する学習へと進んでいったのである。集団がかかえる中心問題に対し，自分なりの立場から貢献しようとする姿勢はEF女らしいものである。

10） 2/14「のう家さんがみんな同じ考えをもっているわけではない」 EF女

今日，しごとの学習で　CD女さんの発表がありました。そこで，W女さんが，

「みんな　のう家さんが同じ考えを　もっているわけではない。」

と言いました。私は，たしかに，そうだなと思いました。なぜなら，野菜を　うえる日が　みんな同じだと言わないからです。何人もが，いろいろなのう家さんにインタビューしていても，べつに　いいけれど，私は，私たちは，2月（につき…2年月組の略称）のやり方で育てたらいいと思います。

そして，何回も　しっぱいして，いい育て方をみつけて，プロに　ちかづいた　あじの野菜を作ることが　できたら　いいです。だから，のう家さんやKさんには，今　この　じょうたいで　いいのか聞いて　たしかめをするのが　いいと思います。

独自学習で，野菜を育てている人の仕事内容と，その仕事をしている理由をインタビューしてきた子どもが，朝の会やしごとの時間に次々と発表して，情報が集まってきた。仕事内容は，聞き取りをした相手によって微妙に違っていた。冬の間は，ほとんど何もしないと言う人や，毎日のように畑に行って作業をしている人，これまでの経験を大切にして，経験から培ったカンをもとに世話をしている人など様々だったのである。しかし，一方で，農家は「常に先のことを考えて野菜を育てている」ことと「おいしい野菜を食べてもらいたいと思ってお世話をしている」ということだけは共通していることも分かった。これらのことを踏まえて，W女は「農家の人がみんな同じ考えをもっているわけではない」と発言した。この意見にEF女も納得して，「2月（注：につき）のやり方で育てたらいい」という考えに至った。これは，今まで分かった事実を踏まえて考えた上でのEF女の意見であった。Kさんをはじめ，これまでインタビューをした野菜を育てている人は，今まで何度も失敗を重ねてきたこと，そしてその失敗を大事な経験として，次に活かしてきたことをつかんだEF女だからこそ，このような考えを述べたのである。

EF女は，最初は農家に勝つために，農家から聞き取りをして，正しい育て方を学ぼうとしていたのである。しかし，学び合いが進むにつれて，農家の人の生き方に触れることで，「勝ち負け」というめあてで本当にいいのかと疑問を抱くようになった。さらに，おいしい野菜を食べてもらうために一生懸命お世話をしているという農家の人みんなに共通する想いがあることを知り，農家の人に勝つためではなく，その願いや想いを知りながら農家の人から学ぶというように，意識が変わってきたのである。

11） 2/15「みんなはおいしいしんせんな野菜をたべたい」 EF女

今日，4時間目に　しごとの学習で　CD女さんとB男くんの　はっぴょうが　ありました。

そして，CD女さんの　はっぴょうで，のう家さ

んは　おきゃくさんに，おいしくて，しんせんな野菜をたべてもらいたい。という気もちがあると言っていました。

私は，たしかに　そうだと思いました。なぜなら，私が　のう家さんだと，くさったものや，だいぶ前に　しゅうかくしたものを，おきゃくさんに　あげたくないからです。のう家さんも，1年じゅう，ほったらかしにして育ててるとは　いわないからです。

のう家さんの中で，水をやっているだけの人もいるかもしれないけれど，本当は，少し野菜のことが　しんぱいになって，畑に見に　いっていると思います。

だから，これは　まねできると思うから，毎朝畑に行って野菜の　ようすを見て，何か　できることを　やるという　きまりを作ればいいと思います。

野菜を育てる人のお世話の仕方が様々であることを知ったEF女は，この日の友だちの発表で，「新鮮さ」ということを考えた。これも今までEF女にはなかった視点である。新鮮ということを考えた時，「農家の人はおいしい野菜を食べてもらいたい」という気もちはみんな持っているし，腐った野菜や新鮮でない野菜を食べてもらおうなんて思っている人はいない。だからこそ，インタビューをした時に「特に冬は畑はほったらかし」と言っていた人も，本当は野菜のことを気にしていつも畑に行っているはずだと，EF女は述べている。農家の人の想いや願い，生き方に触れることで，その人々の生き方に，自分の生き方を重ね合わせて追究していこうとする姿が見てとれるのである。「毎朝畑に行って，野菜の様子を見て何かできることをする」ことぐらいは，私たちにも出来るから，きまりを作って，お世話をしようとEF女は主張する。EF女に力強さも加わってきたように感じた。

友だちの発表を聞き，学び合い，考えることを繰り返すことで，思考が深まってきたEF女であった。

4. おわりに

本単元において，EF女がどのような思考の変化をしてきたのかを検討してきた。最初は，野菜を育てることに興味をもち，世話を始めた。友だちと力を合わせて野菜の世話をすることがだんだん楽しくなり，夢中になって野菜を育てるようになった。

野菜の世話をしていく過程で，農家に聞き取りをしたり，正しい野菜作りの方法を学んだりすることで，科学的なものの見方や考え方が身についてきた。そして，EF女の思考も深まりを見せていった。それは，一生懸命に野菜の世話をし，おいしい野菜を育てるために粘り強く追究を続けてきたからである。このことで独自学習における個の学びが充実したものとなり，交流することによって深い学びへと進んでいったのである。

また，本実践の転換点となったのは，「農家の人は，常に3ヶ月先や半年先のことを考えて野菜作りをしている」という事実をつかんだ時である。これは，子どもたちにとって，今までにない視点であり，今まで持っていた自分の尺度を転換せざるを得ない事実に直面したまさにその時であった。この尺度の転換をもたらしたのは，友だちの独自学習であった。このことをきっかけに子どもたちの野菜作りに対しての考えも変わり，農家の人の生き方にまで追究が深まって行ったのである。

EF女も，友だちと学び合う中で，思考が具体的になり，次第に物事のしくみやつながり合いによってものごとをとらえようとするまでに至った。個の学びがつながることで学習が深まり，それによって課題が次々と生まれたために追究のエネルギーが持続できたのである。

話し合いの授業は重要であるが，それは話し合うことで子どもの思考が深まっていくからである。学び合う授業の基盤となるのは，個の学びであるが，個の学びが充実したものになってなお相互に学び合うことが子ども一人ひとりの思考を深めるのである。だからこそ，個の学びを支え子どもたちが学習を通して交流する教師の出が重要になってくる。そのことに改めて気づかされた実践であった。今後も，個の学びを充実したものにするための教師の指導について，実践研究を続けていきたい。

（付記：本論考は全文を薄田太一が単独執筆し，溜池が文章表現等を修正して作成された）

注

(1) 薄田太一・溜池善裕「学び合いを創り出す独自学習」（『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』no.2，2016年）。

(2) 詳細は以下参照。拙稿「子どもの主体的な学びを育てる～2年・しごと「やさいを　そだてよう～」（『学習研究』no.480，2016年秋号）。奈良女子大学附属小学校学習研究会「平成28年度学習研究発表会　発表資料」（2017年2月）。

※2016年度（交付）科研「教科道徳を視野に入れた小学校社会科中学年授業モデルの構築（16K0466・基盤研究（C）・研究代表：溜池善裕）の助成を受けた。

平成29年3月31日 受理